

## 令和 8 年度秋田県総合政策審議会 第 1 回未来づくり部会（議事録要旨）

1 日時 令和 8 年 5 月 14 日（木）15：00～17：00

2 場所 正庁

### 3 出席者（敬称略）

#### 【未来づくり部会委員】

石井 宏典（株式会社 141&Co. 代表取締役）

加賀谷 さくら（株式会社ねこの手能代 代表取締役）

勝又 奈緒子（NPO 法人かづの classy 理事）

篠原 万里（株式会社御祓川 地域コーディネーター）

#### 【県】

石川 亨（人口戦略部次長）

藤盛 浩二（人口戦略部次長） ほか関係各課長等

### 4 あいさつ（藤盛人口戦略部次長）

・今年度からスタートした秋田県総合計画において、一番最初に位置付けられている「未来づくり」に関することについて議論をいただく。人口減少対策にめどをつけることが最大の焦点であり、2025 年の社会減が 3,408 名という厳しい状況からスタートしている。人口減少に歯止めをかけ、希望が持てる地域づくりに向けた施策を目指していきたい。

### 5 委員の紹介

### 6 部会長の選出等

- ・石井委員が部会長に選出。
- ・加賀谷委員が部会長代理に就任。

### 7 部会長あいさつ

・この未来づくり部会で行う政策の審議というのは、移住対策、出生対策など、県が掲げている社会減 1,990 人という、かなりチャレンジングな目標に対して、数々の事業がたくさん含まれている。

・総合政策審議会で質問したが、既存事業が多い中で、でもそれをやり方であったりとか、取り組み方、考え方を変えると、元々改善の余地があり新しい事業だけではなくて、今県が考えている事業を大きく変えていくことで目標達成できるんだという力強いお言葉を（知事から）頂いた。

・この部会では、場合によっては事業そのものの是非を問う場面も出てくるとは思うが、皆様の御経験や知見をぜひ忌憚のない御意見で伝えていただいて、今の事業がより成功するように、より効果的になるように意見交換をできればと思っている。

## 8 議事

### （１）今年度の未来づくり部会の進め方について

□事務局（清野人口戦略課長）

・資料１により今年度の未来づくり部会のスケジュール及び進め方について説明。

### （２）秋田県総合計画の政策に関する指標設定の背景について

□事務局（清野人口戦略課長）

・資料２により、「政策１ 未来づくり」の「政策に関する指標」である「０歳～１４歳人口」と「出生数」の指標設定理由や背景等を説明。

### （３）政策に関する指標の選定等について

・今年度取り上げる総合計画に掲げる指標として、「０歳～１４歳人口」、「出生数」、「移住者数（県関与分）」、「婚姻件数（概数）」の四つとする事務局案を承認。

### 【意見交換：移住支援関係】

□事務局（品田移住・定住促進課長）

・資料３、資料３－２により移住支援関係の取組について説明。

### ●石井部会長

・まずは移住支援について議論していく。その中でも目玉事業である秋田移住ブーストキャンペーンについてフォーカスして議論していきたいが、先ほど県外に向けて訴求すべき秋田の魅力とは何かという問いがあったので、そこから御意見をもらいたい。

○篠原委員

・秋田の魅力は数あると思うが、その中でも、首都圏になくて地方にあるものが見える化、言語化していくというのが第一歩だと思う。私自身まだ言語化できていない部分もあるので、これから意見交換していく中でより明確に見える化、言語化していきたい。

#### ○勝又委員

・私は神奈川県川崎市から移住してきて十年になる。長らく秋田で移住や関係人口づくりの活動をしてきて感じるのは、移住のサポートも大事だが、定住のサポートも大事だということである。私自身十年住まなかったら分からなかった悩みなどを感じることもある。良い部分悪い部分も生活のリアルな部分を見せて、住んでいる皆さんの声を伝えていけたらもっと秋田の暮らしを身近に感じてもらえるのではないかなと思う。

#### ○篠原委員

・「首都圏になくて地方にあるもの」という文脈の中で、外から来た移住者にとって「地域の人の目が行き届くコミュニティの狭さ」は、ある意味メリットとも捉えられるのではないかなと思っている。仕事の関係で能登半島地震の復興支援に行っているが、朝家から出ると、地域の人たちと「おはよう、〇〇のところの子だね」という感じで、すぐに身バレしていく。それが外から入った私からすると、「私、この地域で今孤独じゃないんだ」と感じられた。そういった目が行き届く、顔見知りが増えるという点は、メリットとして打ち出すこともできるのではないかなと思った。

#### ○加賀谷委員

・私は高校卒業してすぐ能代市役所に就職し、28年働いた。1年前に退職し、今、名簿にあるとおり、株式会社ねこの手能代という会社を作って、ちょうど1年というところである。

・ブーストキャンペーンについて、資料を見ると、まずプロモーションで知る、イベントの中で交流体験する、そして決める・住むというところで大きく分けては3段階になっている。政策的なものになると、金額の大きいところでどうしても焦点が当てられがちになってしまうと考える。この中ではおそらくこのデジタル商品券の交付というのが一番目立つと想像している。しかし、これは本当に最後の決断の後押しであって、金額が大きいところではなく、秋田について知ってもらうための草の根的な総合プロモーションの部分というのが大事なのだらうと思っている。

・果たして秋田に住んでもらうという部分で、今後こういったところに重きを置くのかということである。何でもある都会ではなく、もっと自分を大事にできる場所というのがき

と秋田という地方の良さなのだろうと思っている。その中でも自然の豊かさや、こどもの育てやすさといった点は大事なところだと考える。

#### ●石井部会長

・万人が魅力に思うものはない。ならば、移住における行動変容の「知る」という段階の前に「誰に」というのがターゲッティングされていないといけないと感じる。

・都会の付き合いよりも、地方のウェットで温かいつながりを求めている人にはそれが魅力に伝わるし、自然に感動する人にはそれが魅力となる。誰に受け取ってほしいかによって、訴えるべき魅力は変わる。私の場合だと、秋田は課題だらけで、特に「日本一を冠する課題」が多いというところが、起業家としての私にとっては魅力だった。そのように、ターゲッティングができて初めて、その人にとって魅力的に感じる秋田の魅力は何か、という議論ができるようになる。

・家の問題で言えば、東京でマンション・アパートに住んでいて、こどもが生まれてドタバタやると下の階からクレームが来るというのは多いと思われる。私も実際秋田でマンションに住んでいた際に言われて今一軒家に引っ越した。そうすると伸び伸びできて、こどももこういう環境で育てたいと感じる。それを東京でやろうとするとすごくお金がかかる。でも秋田だとそれが安くできるというのはすごく魅力的になるだろう。そのように、移住を検討している人たちが何に困っているのか、どういう課題を抱えているのか、そしてそれにどういう秋田県の魅力を打ち出せば来てもらえるのかというのを、一般論ではなくセグメントごとに設定していく必要がまずあるのではないかと思われる。

・もう一つは、資料の行動変容のステージが「決める・住む」で終わっているが、そこで終わりではなく、その先にある「定着」の方がもっと価値のある指標だと思う。ブーストキャンペーンのお金がもらえるというのは最後の後押しで、それをきっかけに秋田に来て、長く住んでもらえるためにはどうしたらいいのだろうということの方が重要だと思っている。

#### ○勝又委員

・NPOでは定住してからの困りごと等の相談が多いのだが、最近は外国籍の方の移住も増えてきており、言葉もまだままならないということもある。だから自転車がパンクしちゃったんだけど、車もないからどこで直したらいいか、などといった小さな困りごとの相談が多い。日々のちょっとした生活課題を地域で解決できる「定住後の手厚いサポート体制」そのものを、秋田ならではの魅力として定義し、打ち出していったらどうか。生活に根ざした具体的なサポート事例や地域の優しさを発信することで、移住を検討している人々が、秋田での実際の暮らしを「自分ごと」としてリアルにイメージできるようになると考える。

・秋田に移住して、定住した方の数年後の声を拾うアンケートなどは行っているか。

□品田移住・定住促進課長

・昨年度、これまで移住してきた方々に対しアンケートを行っているので、概要をお伝えする。

●石井部会長

・それは秋田に移住してきて、定着している人のみに対するアンケートか。

□品田移住・定住促進課長

・お見込みのとおりである。県外へ出て行ってしまった人の声を集めるのは中々難しい。昨年度のアンケート結果では、秋田出身の方が半分、県外出身の方が半分となっている。また、世帯内に秋田県出身者がいる割合は約7割である。

○勝又委員

・移住してきた方々のその後の職業や、住まいなどの暮らしがアンケートからは分かるか。

○品田移住・定住促進課長

・移住を促進するための情報を集めるアンケートであるので、移住理由等の質問が中心となっている。今日伺った話は今後の参考とさせていただく。

○篠原委員

・移住してきてくれた後、秋田を出てしまった方々の声には何かヒントが隠されているような気がするので大変参考になると思う。また、移住して今も住み続けている方々が苦勞されたことなど、そういう少しリアルなところもぜひ何か形に残しておけたらいいとも思った。

□品田移住・定住促進課長

・移住者の満足度は聞いており、女性より男性の方が満足度が高い。まだ分析まではたどり着いていないのだが、その他だと、年齢ではあまり変わらないが、移住後の年数でいくと、5年以上の方の満足度が少し低下しがちなところがある。ただ母数はとても小さいので、詳細な分析が必要かと考えている。

●石井部会長

・これまで現場で移住定住の支援をされてきた中で、移住した人が定着につながるか、それとも出てしまうかの分岐点はどういうところにあると思うか。

○加賀谷委員

・行政の側として移住支援に取り組んでいた中では、20代30代の女性の方で、就職が決まったので能代に来た方が、若年層の女性がそもそも少ないので、友達がなかなかできず、出会いもなく、就職はしたものの中高年層の自分の親世代ぐらいの方たちが多かったということで、馴染めずに別の地域に行ってしまったという事例があった。馴染めるか馴染めないかというのはだいたい1年かそのぐらいで決まってくるのではないかと肌感覚で思っている。

○篠原委員

・その人がその地域で生きていくために大事なことの一つに、その人にその地域での役割があるかどうかということがあると思う。

・私も20歳の時に1回県外に出てから戻ってきて就職をしたのだが、やはり最初のうちは同級生もみんな県外に出てしまっているし、なかなか地域の仲間がいなくてすごく孤独だった。孤独を感じた先に、学生時代とはまた別のコミュニティを築いて自分の地域での若者としての役割を得られたことで、すごく存在意義を感じることができたので、その辺りの出会いというのはとても大事ではないかと思っている。

○勝又委員

・地域の仲間というのは非常に重要である。私自身、移住した当時は知り合いも誰もいないから寂しさを感じた。母親という立場であれば、こどもを通じたコミュニティがあるため、馴染みやすいという部分はあるが、若い女性単身での移住というのは相当ハードルが高いと感じている。

○篠原委員

・移住というと家族で、というイメージがあったが、男性単身、女性単身での移住者が割合としてどのくらいか、といったデータはあるか。

□品田移住・定住促進課長

・単身かどうかまではデータがないが、昨今の移住者は若い世代が多く、20代と30代を足すと半分程度の割合になる。

○篠原委員

・懸念していたのは男性がコミュニティに入っていくことのハードルが結構高いのではないかと。被災地の話だが、行政が行う住民説明会などは、みんな自分の生活がかかっているから参加するが、支援団体などが行うお茶会のようなイベントは、女性の参加率が高いが、男性の参加率は低い。それで少し単身の男性がどうだったのかなというのが気になっていた。

□品田移住・定住促進課長

・私としても気になっている部分ではあるが、A I Uの卒業生では、1回県外に出てから戻ってきてくれる方もおり、起業といった部分になると男性の方が戻ってきやすく、逆にそこを軸にしたコミュニティの形成のような動きは出てきていると考えている。

●石井部会長

・上手くいっている自治体の共通点として、地域に人と人をつないだり役割を提供してくれたりするコアプレイヤー、地域コーディネーターがいる自治体というのはいまよくいっていると思っている。それがまさに来てから定住につながらなくなりそうな孤独だったり寂しさだったり地域コーディネーターがいることでそうならないようにしてくれてるというのがあると思う。

・これを県全体で実現するためにはどうしたらいいのかというのを考えると、やはり難しいところはあると思うが、つながり続けられるためにはどうしたらいいのだろうかという部分も、ソフト面としてできることなのではないかと思っている。

・アキタコアベースの秋田オフィスが勝又委員や加賀谷委員が地域でやっているようなことを秋田県全体としてやっていく場になったらいいなと思うが、どうなのだろうと思っているところである。

□品田移住・定住促進課長

・今のところは、移住実現までのサポートということで、定住後のサポートというところはまだ現段階では想定していない状況であるが、必要な視点であると思う。

●石井部会長

・移住者数だけ、入り口だけどんどん増やそうとしても、穴の開いたバケツにどんどん人を入れてもどんどん出ていくだけで、結局社会減が減らないということになりかねない。やは

り移住となれば定住支援というのを同時に考えないと、ただ数値で達成した、でも全然社会減の抑制につながらないということになりかねない。

#### ○加賀谷委員

・少々本筋から逸れるところではあるが、切っても切れないところがあるので少しだけ触れさせてほしい。昨年度、市役所を辞めて会社を起こして、移住体験ツアーを間接的に受注している。ただ、去年から熊の問題があり、キャンセルも何件かいただいた。私が相手の立場でもやはりキャンセルするだろうなと思ったし、この先そこも含めて県では対策していかれるという風なことは聞いているが、是非、その辺りこういったことをやっているというのを広くアピールをしていただきたい。行く先のこれはもうすべてに関わってくると思う。移住とか子育てとかももちろんそうである。秋田県は子育てするのに最適だと、幸福度ランキングでも先ほど1位という風なことだったが、そこがとても大きいアピールポイントであるにも関わらず、なかなか今それを声を大きくして言えないというような現実があると思うので、今後、どのような取組をして、効果が出ているものがあればその点も、積極的に出していただけると、県民も、これから移住を考える方にとっても安心材料となると思うのでお願いしたい。

#### ○勝又委員

・子育てについて、子どもの幸福度ランキング1位になったのはすごいことである。私自身、こどもと毎日同じ時間に寝起きし、一緒に朝食を摂るという生活が毎日送れている。これは秋田に来なかったら手に入らなかった時間サイクルだと思う。首都圏に住んでいる友達夫婦に聞くと、こども1人でご飯を食べさせるのが当たり前であるなど、家族の時間がなくて、いつもバタバタしていると聞く。子育てしていて、母親である幸せを感じられているので、秋田県に感謝している。

#### ○篠原委員

・先ほど部会長から移住者とこちらをつなぐハブ役になるような存在が大事だという御意見があったが、同時にやはり、住んでいる人たちが、移住者の方々に「楽しんでる背中」を見せることも大事だと思っている。

#### ○石井部会長

・秋田の皆さんが、会う人会う人に「秋田めっちゃめっちゃ楽しいですよ」と笑顔で楽しそうに語ることが、私は一番の営業なのではないかと思っている。秋田の皆さんがそれできるよう



になると、「秋田全然違うじゃん」、「明るいじゃん」となるような気がするので、皆さんで頑張っていきたい。

・一旦、移住支援の議論は終えたいと思う。では次に、結婚支援の内容について議論していきたいので、事務局から説明をお願いします。

#### □事務局（佐々木男女共同参画推進課長）

・資料3、資料3－2により結婚支援の取組について説明。

#### ○勝又委員

・私自身、結婚サポーターとしてイベントを1回やったことがある。自分のNPO法人「かづの Classy」で、マッチングイベントをやったのだが、一組成婚者が出た。成婚者はシングルマザーの母親と、単身の男性とのマッチングだったのだが、こどもと一緒に参加できるイベントにしたことで、男性の方のこどもに対する接し方なども見ることができ、母親も安心できたという点が良かったと思う。そのように、テーマを絞ってやってみるのも良いと思われる。

#### ●石井部会長

・結婚支援サポーターをやっていて、この秋田県全体で結婚数が減っている現状について、どういうところに課題感を感じているか。

#### ○勝又委員

・分析されているとおり、女性の参加者集めに本当に苦労する。どうしても女性の20代から30代が、住んでいる人が少ないということもあり、地域が鹿角みたいに小さいと、男性とマッチングしなかった時に、後日街ですれ違ったりするのが怖いという。私がイベントを行う際は、隣の大館市から来てもらったり、近隣の青森・弘前などにも広告を出した。そういう工夫をしている。

・女性の参加が少し少ないので、「友活」という形で秋田県でも取り組んでいるのだと思う。出会いというより交流、友達づくりという形でやるのが本当に大事であると感じている。

#### ○篠原委員

・市町村や民間の婚活イベントの運営に携わった中で、やはり女性を集めることの大変さなどはすごく感じていた。ちょっとでもチラシに「婚活」というニュアンスが出てきた瞬間、

「行きません」と言われる。「結婚に困っている人」というレッテルを貼られるのが嫌なんだろうなと思う。そのため、いかに自然に交流の方に見せて持っていけるかというのは大事ではないかと思った。

○加賀谷委員

- ・私も去年1回婚活イベントをやったが、やはり女性参加者が本当に集まらなかった。
- ・自然に集まることほど良いことはないが、頼まれたから行った、という流れでも全然良いのではないかと考えている。なので、誘ってくれる人を1人見つけて、周りの人を誘って友達同士できてもらうというのも、一つのやり方なのかと考える。そこでもしかしたら気が合う人に出会うかもしれない。様々なあり方があっていいのではないかと考えている。
- ・人それぞれ傾向や好みが違うため、イベントについても、県で行っているような大規模イベントであるとか、もう少し地域に寄り添った小さいイベントであるとか、様々なタイプのものがあっていいのではないかと考える。

●石井部会長

- ・今、現場担当としても女性の参加者を集めるのが大変という声があったが、あきた結婚支援センターの会員数もやはり男性に寄っているのだろうか。

□佐々木男女共同参画推進課長

- ・直近のデータでいくと、男性と女性の割合は3対1で男性が多い状況となっている。
- ・先ほど委員からも御意見いただいたが、県主催イベントでも女性の充足率が低いという課題があった。友達と一緒に参加できるなら参加したいという若い方からの御意見もあったため、友活イベント等、少し大きいイベントにシフトした結果、令和7年度の県主催イベントでは女性の充足率がすべて100%を超えたため、引き続き工夫しながら開催していきたいと考えている。

○篠原委員

- ・一方で、友達同士で参加すると、その友達がずっとくっついて行動してしまうということもある。色々テコ入れは必要そうである。

□佐々木男女共同参画推進課長

- ・事務局からであるが、社会人や大学生向けのライフデザインのガイドブックについて、今年度からは紙媒体ではなく動画の方にシフトしたいと考えている。当事者である若い方にど

のように手に取っていただくかという点などが、難しかったため、そういった点について少し御意見をいただければありがたい。冊子は、県の「美の国あきたネット」にデータを掲載しているため、ダウンロードできる環境は整えているところである。

○勝又委員

・この冊子は情報量がすごいが、ではこれを見て「結婚したいな」となるかと言ったら、若い方は教本のように感じるかもしれない。

・映画『プラダを着た悪魔』は女性のキャリアなどをファッションで見せて、別にキャリアを積もうとか仕事を頑張ろうとか、そういうテーマではないはずなのに、自然と女性たちが前を向いて頑張りたいと思える見せ方になっている。同様に結婚も、ただ結婚式の画像を見せるとかではなく、仕事も収入も将来の不安もあるものの、それでも私は好きな人と出会って一緒になって人生を描いていく、というストーリー性のある動画であれば、結婚しようという裏メッセージはあるものの、素直に若い方たちは憧れになるのではないかと思う。

○篠原委員

・結婚した後どうなるのか、という点も見えたら良いと考える。

□佐々木男女共同参画推進課長

・若い方との意見交換でも、女性からは結婚だけでなく、その後の出産、子育てまでの情報がほしいという御意見もあったため、参考にする。

○篠原委員

・若い人の手に渡るという意味では、各民間企業に配るとするのはどうか。

□佐々木男女共同参画推進課長

・この冊子に関しては、企業の協力をいただきながら配っており、他に金融機関の方にも協力いただき、若い方ご本人でなくても、親世代から届くような工夫はしているところである。

○加賀谷委員

・私は世の中全体が、なんとなく晩婚化しているように思っていたが、いざ出会い・結婚の担当になってデータを拾ってみると、能代市のみのデータではあるのだが、男女とも 25 歳から 29 歳が初婚年齢のピーク年齢なのである。20 代か、というのが正直驚いたところである。

・大人向けに配布されている冊子には、5 ページに夫婦の平均初婚年齢というものがあるが、やはり県全体としても、女性は 20 代、男性は 30 歳に入り込んでいるが、意外と早いんだな、意外と早く考えなきゃいけないんだなということを、もっと若い人に知ってもらわないといけないのではないかなと思っている。

・結婚する、こどもを持つ、というのは個人の問題でありながらも、正しく選択していただくためには、早い段階できちんとしたデータを示して考えていただくというのは、大事なだろうと思っている。

#### ○篠原委員

・部会資料 3 に、未婚者の約 8 割は結婚を希望というデータがあるが、深掘りしていくと、本当は結婚を希望していないパターンにたどり着くこともあるのではないかなと思う。今、社会的に結婚のニーズがすごい低くなっているような気がしている。若者にとって結婚するメリットが見えなくなっている。この 8 割の結婚を希望している人たちは、もしかすると世の中の多くの人は結婚するのが当たり前だからとか、親に結婚を早くしろと言われるからとか、あと結婚できないと、社会についていけないような気がするから、なんかそういうところに少し流されて回答しているような気もする。そもそも論になってしまうが、何のために結婚するのかという、ライフデザインについて考えるところも大切ではないかなと思った。今すぐ、結婚に対する施策を打っていかねばいけないというのは分かるが、同時に、何のためにするのかということを考えていくところも決して忘れてはいけないと感じる。

#### ●石井部会長

・篠原委員の御意見と同じく、そのデータが正しいかどうかというのは、私もすごく気になっている。未婚者の 8 割が結婚を希望しているとして、結婚できない理由が、単純に出会えないことに帰結するのであれば、ではどうやったら、そのマッチングをスムーズに効率よく、効果的にできるかが多分事業として考えるべきポイントだと思っている。そういった事例では、A 1 マッチングが今世界的にも、結婚につながる可能性の高いツールとして取り入れられている。

・一方で、本当は結婚を希望していない人が多いのではないかなという観点で見たときには、結婚とはそもそもどういう未来なのかということを、リアルに想像してワクワクするような、そういった仕掛けも必要になってくるのではないかなと思っている。

・少しジェネレーション的な話になってしまうかもしれないが、私は今 38 歳で、我々世代は学校等で結婚がいいよとか教わったわけでもないのに、自然と将来結婚して子どもがいる自分の未来を想像して、そうなりたいなと私は思い、今子どもがいる。もしかしたら今の

世代が、何故そうじゃないのかというところを深掘りしていくと、ヒントが出てくるのではないかと思っている。単純に、ライフデザインが足りないんだ、というのが、本当なのかどうか。仮説ではあると思うが、本当にこれが解決策になるのかどうかというのは、データとして検証したほうがよいのではないかと思っている。

#### ○勝又委員

・私が関東に暮らしていた時は、高校生からバイトを自由にやって良かったし、自分を表現する場に、様々なところに出会いに行けたというのがある。しかし、自分が今住んでいる鹿角で、こどもたちの出会いの場といたら、バイトも規制がかかっていたりするので、友達もなにかも学校で作るしかない。そのため、ライフデザインというものを可視化してあげる必要があるのだろうなと思ったが、こどもたちが自然に出会ってほしいと思った時に、これは関係ないかもしれないが、例えば学校がバイトを許可したりなどしてくれたら、もっと出会いのきっかけになるようなことは自由にさせてあげたいというのが、親心としてある。

#### ○篠原委員

・大学生のインターンシップなどで学生と関わる機会が多いが、結婚だけでなくどんな生き方をするかという意味でも、ロールモデルが少ないというのは問題であると思っている。小さい頃からいかに多くの様々な大人のパターンを見ておくかというのは結婚についても重要だと思う。色々な夫婦の形であったり、パートナーシップ等を見ることができていたら、もう少し結婚に対して想像が膨らむ。もう少し結婚に対してのハードルが下がるパターンもあるかと、話を聞いて思った。

#### ○勝又委員

・（資料について）婚活、結婚関連事業者というのはどういう、具体的にどんなところだろうか。結婚相談所、ブライダル産業などか。

#### □佐々木男女共同参画推進課長

・県内にも民間の結婚相談所は多数ある。4月に県と結婚相談の最大手の株式会社 IBJ で連携協定を締結したため、その民間のノウハウを活用させていただきたいと思っている。

・先ほどの部会資料3の若い世代の未婚者の約8割が結婚を希望しているというところだが、もう少し詳しいデータを申し上げる。県が実施した20歳から39歳までの方への調査になるが、結婚したくないと答えた方も確かにおり、結婚したいと答えた方が8割であった。その8割を分析すると、婚活していない方が、8割の中の約半分、婚活をしている方が

8%程度、実際に交際している方が20%少しであった。婚活していない理由としては、どうやって婚活をすればいいか分からないという答えが一番多かった。

○篠原委員

・周りの友人等を見ていると、一度婚活頑張ってみようと思ったものの、一回出鼻をくじかれるとそこから復帰できないことが結構あると思っている。一回うまくいかないと、かなり自信を喪失してしまって、また婚活市場に戻ってこれなくなっている人も一定数いると思うので、ソフト面で何かできないものかと思う。

○勝又委員

・婚活にはいろんなパターンがあると思っており、関東の友人はほぼみんなマッチングアプリだった。マッチングアプリ婚が当たり前なのだと思っていたが、秋田県の施策でもマッチングアプリはあったらどうか。

□佐々木男女共同参画推進課長

・あきた結婚支援センターでA1マッチングシステムを導入している。

○勝又委員

・センターの愛称はもう決まっているのか。

□佐々木男女共同参画推進課長

・これから決定する。夏頃までには決めたいと考えている。

○勝又委員

・確かにあきた結婚支援センターとなるとすごく構えてしまったりすると思うため、どんな名前になるのか楽しみにしている。

・結婚サポーターも、鹿角市は多分10名以上いると思うが、ボランティア活動になってくるので、そのサポーターの事業活動費みたいなものがない。そのためやはり真剣に婚活を市の中で頑張ってもらいたいとするならば、サポーターもちゃんと仕事にしてあげて本気でやらないと、ボランティアの中ではできることは限られていたりするので、制度をもっと変えたほうがいいのではないかというのもあった。ボランティアでいいという方ももちろんいると思うが、そういう方を見ていると年齢層が高い。サポーターの年齢層も上がっている

聞いている。20代から40代の結婚適齢期と言われる方々のサポートをするのであれば、同じサポーターの若返りも必要だと思うため、そのあたりも含めて、考えてもらいたいと思う。

#### ○加賀谷委員

・イベントの開催に関して、今までやっていたのかどうかを全て把握しているわけではないが、県もしくはあきた結婚支援センターへのお願いという形にさせていただきたい。先ほどもおっしゃっていたとおり、限られた地域だとどうしても知り合いに会ってしまうかもしれないという恐怖感があるため、大規模なイベントの方に誘導したりもするが、大規模なイベントでは、極端な話を言うと、一番の北西部の八峰町と、南東端の、東成瀬村の方などがもしかしたら出会ってしまうかもしれない。そうするとやはり、そのあとが続きにくいということもある。そのため、広域での開催であっても、近い地域の人同士が出会えるように、県主催の秋田市で実施するイベントだが、今回は県北の人を優先とする等、広く申し込みは受けることにしつつ、出会える人たちのエリアを限定してあげるのもよいのではないか。今後の検討課題にさせていただきたい。

#### ○篠原委員

・婚活市場にいる人たちにどんな層がいるかというのを具体化して、もう少し見える化していくことも大事であると感じた。この婚活市場にいる人たちに、どんな人たちがいるのかという想定を具体化していくことで、また新たなヒントが見つかるのではないかと思った。

#### ●石井部会長

・結婚支援も移住支援も、口頭でデータを御説明いただいととても参考になったため、もしそういう参考になりそうなデータがあれば、事前にいただくと、それを見ながら、よりリアルな意見もできると思うため、次回、部会の前などに、事前に資料をお配りいただくとありがたい。

・では、ここから全体に対して質問意見等があればお聞きして、もしなければ今日の部会を終了したいと思うが、どうか。

#### ○勝又委員

・部会の進行はこのようなスタイルで良かったらどうか。

#### ●石井部会長

・具体的に深掘りしてほしい部分などがあれば、ぜひそちらも教えていただきたい。

○事務局（清野人口戦略課長）

・今回1回目ということもあるため、ある程度皆さんの問題意識というか出していただいた上で、2回目に向けて今日を受けてこちらからデータをお示しさせていただくとともに、深掘りしていただきたいポイントもこちらから示させていただきたいと思っている。

●石井部会長

・まず今日、委員の皆様の発言というのが単なる批判的な内容ではなくて、こうしたらいいかってというふうに未来につながるような非常に前向きな御意見が多かったため、少し参考になったのではないかしらと思うし、これをベースにもっとこれから詳細を詰めていくフェーズに移っていくため、今回のような感じで御発言いただけたらありがたい。

○勝又委員

・未来づくり部会というのは本当に素敵な部会だと思った。移住して思ったが、移住、定住、結婚、出産、子育てというのは全部つながっている。私が移住コンシェルジュをやっていた時は、暮らしのアドバイザーだと思っていた。これは本当に人生に関わる仕事であるから、すごくプライドを持って3年間やっていた。そのプライドや、私が助けられたから秋田の皆さんに引っ越してきた時に、お返ししたいって気持ちもあったし、その熱量がおそらく一人ひとりにあれば、例えば移住しに来ましたと市役所に誰かが来た時に、「ようこそ！」と、店員のように、「いらっしゃいませ」といった感じで出迎えるような、その気持ちがまず大事だと思った。

・移住ツアーが終わった後にウェルカムツアーというのも行うのだが、「来てくれてありがとうございます」と伝え、その後に移住コンシェルジュが市内を案内する。市内のことは私たちが教えるので安心してもらいたいと伝える。市役所に戻ったら、市長が移住者の方のところに来て、色紙を渡すのである。「ようこそ」って。そんなことしてくれる市は他になかったと言ってくれている。だからその一人ひとりのそういう気持ちが大事になってくるのだらうと思った。皆さんで未来を作っていけたらと思う。

●石井部会長

・もし御意見とか全体に関する御意見御質問があれば、事務局宛にメールなり電話なりしていただけたら、それを次回に活かしていきたいと思う。では、時間になったので、以上で意見交換、議論を終了させていただきたいと思う。最後にその他として事務局から何かあるか。



□事務局（人口戦略課 渡部）

・先ほど石井部会長からもお話あったが、今回いただいた御意見等そういったものを、事務局の方で整理し、改めて示すので、また今回時間の関係で発言できなかった部分等あれば、先ほどのお話のとおり事務局の方にメール、ファックス、電話等で結構なので、後ほどいただきたい。

・その他、議論の中でも出たが、こういう資料がほしいという場合も事務局の方に御連絡いただければ、可能な限り準備するため、よろしくお願いします。

・次回以降の日程については、追って日程調整の連絡させていただく。2回目については完全オンラインとなっているため、その点御了承いただきたい。

●石井部会長

・では、他に進行を事務局にお返ししたいと思う。

□事務局（人口戦略課 伊藤 TL）

・長時間にわたり熱心に御議論いただき感謝申し上げます。以上をもって、令和8年度秋田県総合政策審議会第1回未来づくり部会を閉会する。